

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に朝礼でコンセプトを読み理念を共有カンファレンス、モニタリング等ケアの基本的な考え方として『寄り添う介護』の意味を再確認しながら話し合い、サービスの提供に繋げている。	法人理念を基に年度別総合目標とテーマ毎の目標を設け利用者に寄り添い安心して暮らせるよう支援に取り組んでいる。理念については朝礼で唱和し共有と実践に繋げている。また、職員の定着率もよく職員同士カバーし合い、楽しく仕事の出来るようチームワークを回り支援の質の向上に繋げている。家族に対しては入居時や広報誌で取り組み姿勢について周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	GHの秋祭りに招待したり、区の祭り防火訓練に呼んでもらっている。開設以来地域のボランティアに来て頂き習字・読み聞かせ・絵手紙俳句等関わって下さる。施設の草刈り作業をおねがいしている。	併設の養護老人ホームと共に区費を納め地域の一人として活動している。今年は春先からの新型コロナウイルス感染の影響を受け「地域の芸術祭」「市の文化祭」等、地域行事のすべてが中止になり、合わせて保育園児の来訪や職場体験の学生の来訪も取りやめになり残念な年となっている。新型コロナウイルス感染の収束後には積極的に地域との交流を再開する意向である。それまではホーム独自の「秋まつり」等の行事を内部で行い利用者を楽しんでいただく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症を患う方とその家族を支える取り組みとして認知症デイを開設し受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動の報告、事例の報告利用者様の状況等を報告し理解を頂いている。頂いた意見を参考にサービスの向上に努めている。	利用者代表、家族代表、区長、民生児童委員、市高齢者保険課職員、市高齢福祉課職員、西部保健福祉サービスセンター職員、介護相談員、ホーム関係者の出席で定期的開催しているが、本年度は新型コロナウイルスの影響で開催できない状況が続いている。会議では利用状況、職員の状況、事故、行事、新型コロナウイルス感染防止等についての報告を会議資料としてまとめ参加メンバーに報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護保険課、病院等から空床の問い合わせあり情報提供している。介護相談員が来所され、利用者様との交流やスタッフの相談に応じてくださっている。	市の介護相談員の来訪が毎月あり、利用者顔馴染みの関係にもなり時間をかけて話もしていただいているので来訪を心待ちにしている利用者がいる。介護認定更新の調査は調査員がホームに来訪し本人や職員と話し、立ち合う家族もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の「身体拘束ゼロ宣言」に基づいて身体拘束研修を実施、身体拘束に対するスタッフの意識の強化をおこなっている。	年1回、スタッフ会議の中で「身体拘束ゼロ」についての研修を行い、また、その中で職員同士で確認し合い、法人の「身体拘束ゼロ宣言」に従い拘束の無いケアに取り組んでいる。更に、運営推進会議の席上でもホームの現状を報告している。立地上、玄関は安全確保のため施錠している。帰宅願望の強い利用者があるが利用者の話を聞き思いを理解し対応している。日中リビングにいる時間が長いので職員は利用者の居場所の確認を常に行い、安全の確保に繋げている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所にあたっては、先方ケアマネさん同行の元に居宅訪問を実施、施設見学の際にもさらに理解を深めるための面談を行う。入所時はご本人との時間を大切に安心してできる対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所後と場面ごとに出てくるご本人様やご家族様の戸惑いや、伝えきれていなかった想いについてその気持ちを推し量るように努め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様の意向に沿い、必要なサービスを見極めプランを作成している。職員で共有し統一したケアの提供に努めている。個別の要望をお聞きし対応可能な社会資源を捜すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、ご利用者様の昔の苦労話や、お料理、家事等の生活の知恵をお聞きする事で共に支え合うの関係を保つよう心掛けている。出来ることの継続、出来ていたことの回復を意識した支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に支えて頂く部分とこちらで支える部分を共有し一緒にご本人を支えて行く関係を大切にしている。状況に応じて細やかな情報の伝達を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の主治医Drに出来るだけ継続して診察出来る様お願いしている。知人や馴染みの訪問看訪を大切にしている。入所後定期的に来て下さるボランティアとの新しい馴染みの関係も大事にしている。	新型コロナウイルス感染の影響で外部からの来訪が難しい状況が続いている。そうした中で、ホームの電話や携帯電話を利用し家族等と話をされている利用者が数名いる。外の美容院や訪問美容の来訪も難しい状況なので2ヶ月に1回職員が髪の毛を整えている。また、利用者個々に作成した「絵手紙」を年賀状にして家族に毎年発送し喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ屋根の下で過ごす仲間としてお互いさまの気持ちを大事に助け合い支え合える仲間づくりを心がけ、食席・話題の提供など工夫している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談支援をさせて頂きたい旨をお伝えしている。住み替えの際には先方の担当者に当施設に於いての認知症に対するコミュニケーションの工夫やご本人の気持ちのサインの特徴などを細かく伝える様にしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に時間を過ごす中でご本人の思いや希望を言葉のみではなく表情からも受け取り、日々の変化気づきを大事に見逃さないようにしている。	家庭的な雰囲気大切に自分の家と提供いただけるような介護を目標に取り組んでいる。利用者の状況を見て落ち着いた時や耳の遠い利用者については居室においてきめ細かく話を伺うよう心掛けている。また、日々、気づいた言動等については日常生活記録の中に残し、出勤時に職員同士確認し合い、日々、思いに沿った支援に取り組んでいる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	福祉関係者だけでなくご友人や親戚の方等GHに来てくださった方からも、お聞きするようにしている。思いがけず当時の暮らしについてお聞き出来る事もあり、話題が広がりご本人の生活すたいの理解につながることもある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活での日課を提供させて頂く中でで個々の希望に応じ参加していただいている。レク等好きな時に楽しんで頂きそれぞれの生きがいに繋がる役割分担を大事に関わっている	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族様の意向に沿ってご本人が自分らしく生活できるように計画を作成している。ご家族様にもお聞きしながらご本人の状況の変化にあわせ随時計画の修正、変更を実施している。	担当制を敷いており職員は基本的に1名の利用者を担当し、居室の整理整頓、不足物の補充、利用者の現状把握、気になっていること等の簡単なモニタリングを毎月行い、それに合わせ計画作成担当者が3ヶ月に1回モニタリングを行い、家族の希望と本人の意向も取り入れ基本的に6ヶ月に1回プランの見直しを行っている。また、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態・気持ちの変化、気付きはカーデックスに記録し、朝礼・ミーティング等で共有、モニタリングに繋げプラン立案に活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により退院後の生活リハビリの場としての早期の受け入れ、通院時の送迎、お見舞い等柔軟な対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボラとして、習字、絵手紙、本の読み聞かせ、俳句、傾聴を定期的を実施楽しんで頂いている。地区の夏祭り、文化祭、保育園、小学校との交流会、踊りの発表会にも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅当時のかかりつけ医の継続を出来るだけお願いしている。平常はご家族様に付添ってもらい必要時にはスタッフの対応も行っている。身体機能の低下により往診対応が増えている。	全利用者が入居前からのかかりつけ医を利用しており、半数弱の利用者についてはかかりつけ医による月1回の往診で対応し、半数強の利用者は1～2ヶ月に1回家族が受診にお連れしている。受診時には家族に現在の状況を話している。なお、かかりつけ医についてはオンコール対応で連携が取れるようになっている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や気づき等看護師と連携を取りながら対応している。必要に応じ主治医に報告連携を密に脂安心安全にお過ごしいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	書面による情報提供だけでなく、入院付添時やお見舞いの際に日常の様子を細かく伝える様になっている。病院の相談室との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際、その後随時、重度化や終末期のあり方について説明を行っている。急変時や転倒時には今後のADLの低下やリスクの発生の可能性、こちらの支援体制の限界についてお話しさせていただき理解を求めている。ご本人が望まれる終末期を安楽に過ごせるよう取り組んでいる。	重度化や終末期に対する指針があり利用契約時に説明している。状態に変化が見られ、終末期に到った時には家族、医師、ホーム職員で話し合い、家族の意向を確認の上、看取り同意書を頂き看取り支援に取り組んでいる。医療行為が必要な場合には医師の指示に従い期間限定で訪問看護ステーションの看護師と契約を結び、医師と連携を取りながら気持ちのこもった支援に取り組んでいる。現在も看取り支援中の方がいるが、開設以来4名の看取り支援を行っており家族より感謝の言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体急変時の勉強会を実施。発生時の手順を再確認し、急変時の対応マニュアルを掲示している。新規の職員が夜勤デビューする際は看護師より急変時の心得をあらためて指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練を実施。ミニ訓練(緊急連絡網・171災害用伝言ダイヤル・地震・通報)を計画実施している。推進会議にて地域の方への協力をお願いをしている。消防設備点検を年2回実施。消防署の立ち入り検査実施。	年2回、6月と9月に消防署員参加の下、併設の養護老人ホームと合同で総合防災訓練を実施している。水消火器を使っての消火訓練、通報訓練、AEDの使い方、利用者を玄関先まで移動しての避難訓練を行い防災意識を高めている。また、法人の防火管理者出席の下、ホーム独自の地震想定、夜間想定のみニ防災訓練も行っている。更に、年2回防災会社による防災機器の点検も行い緊急時に備えている。備蓄は「水」「食料」などが3日分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を尊重しプライバシーに配慮した対応を行っている。接遇チェック表にて自己診断を行っている。個人情報の保護に努めている。特に入浴・排泄介助ではプライバシーを損ねないよう配慮している。	利用者一人ひとりを一人の高齢者として尊厳を持って接し、プライバシーに配慮し気持ち良く過ごしていただけるようにしている。接遇チェック表を用い職員個々に振り返りの時を持ち利用者を尊重するとともに個人情報の保護にも努めている。言葉遣いには気配りをし、トイレ介助には特に気をつけている。利用者への呼び掛けは敬意と親しみの気持ちを込め苗字か名前に「さん」付けでお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様に話しやすい雰囲気や大切にし、ご本人に合った言葉かけや表情から気持ちを推し量るようにし、自己決定を待つゆとりを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。大枠の日課の流れを説明した上でご本人の希望に配慮してケアを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々のお化粧やおしゃれを大切にしている。日常生活では化粧水やつばき油へのこだわりに対応、離床時の頭髮の乱れについては随時ブラッシングをお勧めしたり介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や味付けについてお聞きし調理している。職員が同席しBGMや会話を楽しんで食事をするようにしている。行事時のお弁当作りや餃子・おはぎ・お寿司・干し柿作り・お漬物作りを一緒にやってもらっている。	自力で摂取できる方が多く、介助が必要な利用者もいる。広いリビングに3ヶ所の食事テーブルが置かれ、3名ずつゆったりと腰掛け、それぞれのテーブルに1名の職員が付き会話を楽しみながらの食事をしている。献立は家庭的な料理を意識し、冷蔵庫の中の食材を見て朝は卵料理、昼は肉料理、夜は魚料理を中心に汁物、煮物、サラダをプラスする等、工夫をした料理を提供し喜ばれている。また、おやつについては午前中はヨーグルトとお菓子、午後はドーナツ、薄焼き等を手造り楽しんでいる。合わせて敬老会、正月等の行事の際にはバイキングや季節の料理などを楽しんでいる。現在は新型コロナウイルス感染の影響で外食に出掛けられない状況が続いているが、収束後には「回転ずし」等に出掛ける予定となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に合わせ栄養バランスを考え過不足のないように注意している。食事摂取量・水分摂取量を観察し必要量の確保に注意している。体重の増減・アルブミン値に注意し食べ慣れたメニューを大事にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに介助が必要な方、声掛けが必要な方のアセスメントを随時行いケアさせていただいている。義歯の洗浄についても同様。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意を大切にシブライドを傷つけない対応、本人の意思を尊重した対応にて介入している。尿意の低下により時間誘導の方もいるが、時間間隔に配慮し、出来るだけ失禁しないようにしている。	利用者のうち三分の一の方は自立しており布パンツを使用しており、他の方は声掛けでの一部介助でリハビリパンツとパット使用という状況である。排泄チェック表を用い毎日の関わりの中でパターンを把握し早め早めの誘導を行いスムーズな排泄に繋げている。合わせて起床時、おやつ前、食事前、就寝前にも様子を見て声掛けを行っている。また、排便促進を図るべく午前中のおやつ時に「ヨーグルト」「寒天」等の水分摂取を勧めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫と定期的な運動により予防を心がけている。排便チェックを行いDr、Nsと連携し、個々に応じた下剤の内服を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日を入浴日とし体調や希望に応じて日や順番を調整している。入浴剤を工夫しかりん湯等も実施している。ゆっくり、つろいで頂けるように声掛けにも工夫している	浴室は明るく広々とし開放感が漂っている。自立の方と全介助の方が若干名ずつで、三分二の方が一部介助となっている。週4日、入浴日を設けており、そのうち2回は入浴していただくように勧めている。入浴拒否の方もいるが、寄り添い話を聞き、週2回は入浴できるように声かけなどの工夫をしている。また、季節に合わせた入浴剤を用い、寛いでいただけるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自由に、好みの場所で休息が取れるよう落ち着いた空間を調えるよう配慮している。就寝前にはテレビを見たり本を眺めたりして、ご自分のペースで就寝されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診往診時の記録の整備、情報の共有の努めている。お薬の用法・量・副作用・効用についてはファイルにて確認し状態の変化を観察、記録する。服薬介助では声出し、二重チェック、飲み込み確認を行い、服薬ミスの回避に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみの多い、張りのある生活を送れるよう支援している。一人一人がそれぞれの生活の場面で趣味や生活歴を生かし主役になれるような働きかけ、役割分担に配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望に沿って出来る限り外出の機会を作っている。身体的理由により外出希望の方が減少傾向にある。ご家族様の協力によりお墓参りにいかれた方あり。少人数や個別の外出・外食を実施している。	外出時は自力歩行の方が三分の一で、他の利用者は車いす使用という状況である。新型コロナウイルス感染症の影響で外出が難しい状況が続いているが、ホーム内の行事で体を動かしたり毎日歌に合わせて「元気体操」を行い機能低下を防いでいる。また、週3日は数百メートルある施設の周を散歩し、複合施設敷地内の東屋で歌を歌い寛いでいる。また、ホームの中庭の家庭菜園で夏野菜の栽培を楽しみ、今年はキューリ100本の収穫目標に対し200本以上を収穫し日々の食事でおいしく頂いているという。新型コロナウイルス感染収束後は年間外出計画に従い積極的に外出する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもとに少額のお金を施設でお預かりしている。職員が代行して希望の物を購入している。ご自分で直接お金を使うことは減ってきている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所時のご家族・ご本人の希望により個別のルールを確認し電話利用の支援を行っている。家人よりの電話を取り次ぐことで、コミュニケーションの機会をより多く取れるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にそれぞれに合わせた季節のお花や観葉植物を置いている。季節に合わせてたなばた飾り、お雛様等の飾りをして心地良い落ち着いた雰囲気が保てるように工夫している。リビングに習い事の作品を掲示している。	玄関を入ると額入りの絵手紙と顔写真入りの職員紹介のプレートが迎えてくれる。広々としたリビングには3ヶ所に食事テーブルが置かれ、ゆったりと寛げるようになっている。また、壁には利用者が制作した書道、俳句、絵手紙等の作品が飾られている。更に充分な広さが確保されたホールには大きなソファが置かれテレビを見ながら話を楽しむ利用者の姿が見られた。合わせて中庭には家庭菜園があり夏野菜の収穫を楽しんでいる利用者の様子が容易に想像でき、職員と共に一つの家族として穏やかな日々を送っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、戸外に椅子設置食堂席等自由にくつがれる居場所を工夫している。新聞雑誌は好きな時に見れるように置いてある。ソファの配席は決めていないが席はほぼ決まってお安んできるような工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅の時に使っていた馴染みの家具やテレビ、ぬいぐるみ、観葉植物、信仰の対象等を置かれている。タンスの中段の戸棚にはおもいおもいに好みの小物を飾っていただいている。	整理整頓が行き届いた各居室には洗面台、大きなクローゼット、整理ダンスが備え付けられ暮らし易い空間となっている。持ち込みは自由でテレビ、家具、椅子等が持ち込まれ、壁には家族の写真や絵画、書道等の作品が飾られ思い思いの生活を送っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかりやすいように表示している。安心して生活できるよう、また混乱しないように不必要な環境の変化を避けるよう心掛けている。希望に応じて電灯の紐を延長しご自分で使いやすようにした事もある。			